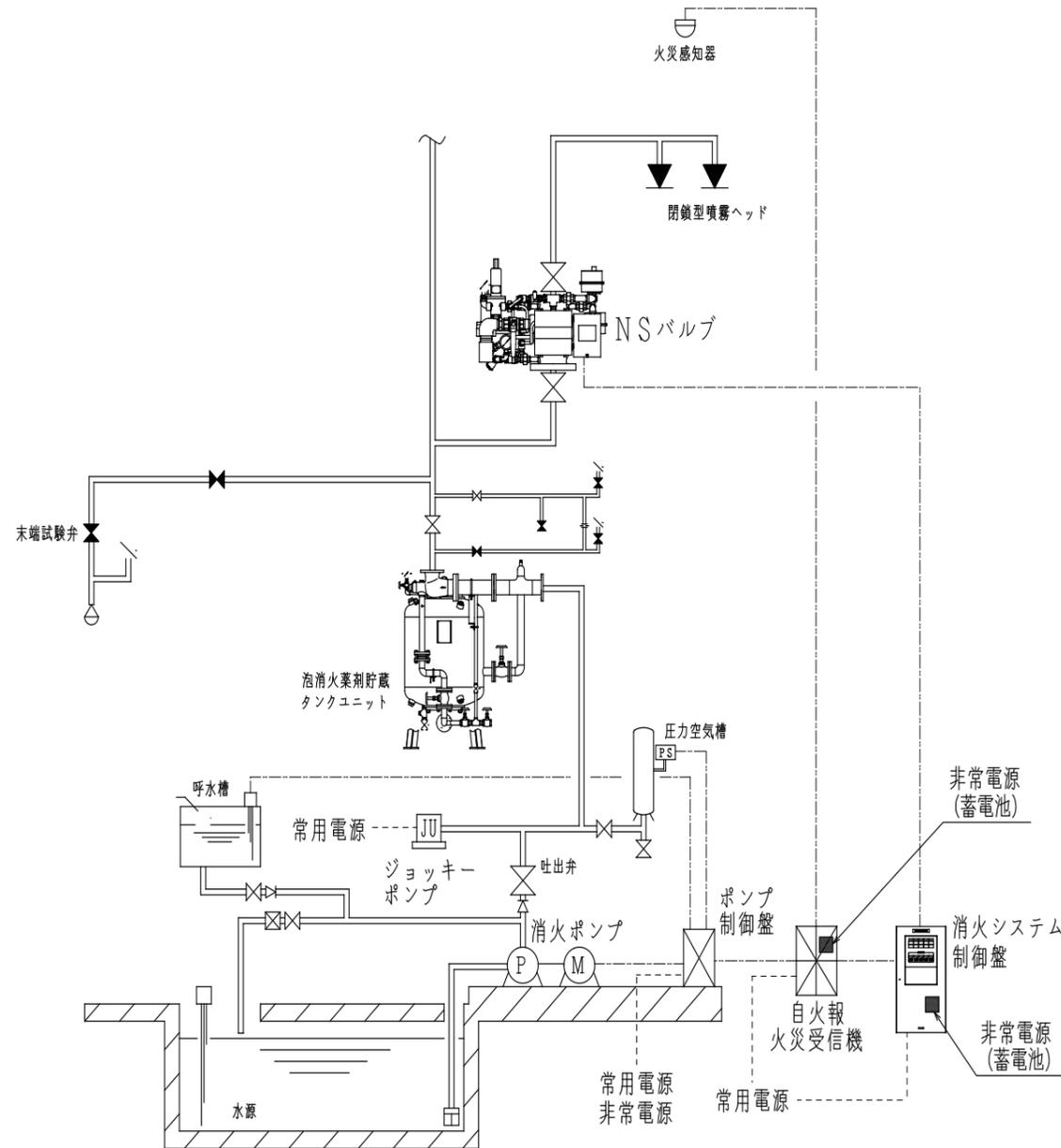
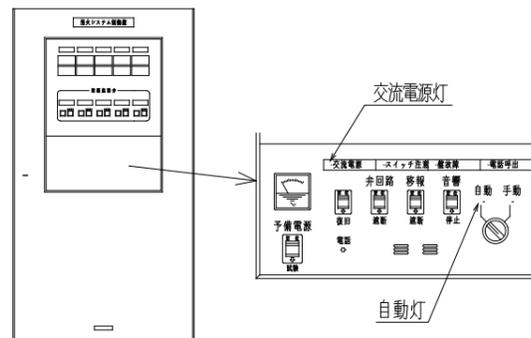


2-3-2 閉鎖型噴霧消火システム（スコール）

(2) P型制御盤の場合



スコールの系統例



消火システム制御盤の例

停電時

発生する事象	停電後	<ul style="list-style-type: none"> 消火ポンプの電源が遮断され、自動的に非常電源からの電源供給に切り替わります。運転中に停電し一旦電源供給が遮断されても、非常電源に切り替わると自動的に消火ポンプが起動・継続運転します。 消火ポンプの非常電源が、非常電源専用受電設備の場合は、停電直後から消火ポンプの起動ができなくなります。 消火ポンプの電源が非常電源に切り替わる際に、消火ポンプの電源断の表示および警報が発せられる場合があります。 非常電源が接続されていないジョッキーポンプ（補助加圧ポンプ）は作動できなくなるため、配管内減圧により消火ポンプが起動する場合があります。◆ 消火システム制御盤の電源が遮断され、自動的に制御盤内部の非常電源（蓄電池）からの電源供給に切り替わります。 消火システム制御盤の電源が非常電源に切り替わると、交流電源灯が消灯します。（自動灯は点灯します。） 補助散水栓上部に設置されている赤色の位置表示灯は火災受信機から電源供給（自火報設備が持つ非常電源による電源供給）が継続されます。
	非常電源容量低下時	<ul style="list-style-type: none"> 消火システム制御盤の非常電源容量が低下すると、NSバルブ等を遠隔操作することができなくなります。火災が発生した時はNSバルブにある手動起動弁を操作してください。
	非常電源供給終了後	<ul style="list-style-type: none"> 消火ポンプの電源が完全に遮断されると消火ポンプが起動できなくなり、また消火ポンプの電源断の表示および警報が、火災受信機などに発せられる場合があります。 火災受信機からの電源供給が完全に遮断されると補助散水栓箱上部に設置されている位置表示灯が消灯します。 消火システム制御盤の電源が完全に遮断されると盤面の表示灯が全て消灯します。また、NSバルブ等を遠隔操作することはできなくなります。
必要な対応	<ul style="list-style-type: none"> 非常電源供給終了後はスコールシステムが機能しないため、人により火災を警戒する等の対応をしてください。 	

復電時

発生する事象	<ul style="list-style-type: none"> 消火システム制御盤の電源供給が自動的に再開され、交流電源灯が点灯します。 消火ポンプ、ジョッキーポンプなどの電源供給が自動的に再開されるため、対応が必要なものはありませんが、制御盤類の状態（表示灯、スイッチ位置等）が正常であることを確認してください。 長時間におよぶ停電で配管内圧力が下がっている場合、復電により消火ポンプが起動する場合があります。◆ 補助散水栓上部に設置されている位置表示灯の電源供給が自動的に再開され、位置表示灯が点灯します。
必要な対応	<ul style="list-style-type: none"> 自動で設備が復旧しますので、対応が必要なものはありません。 火災以外で消火ポンプが起動した場合は、ポンプ制御盤のポンプ停止押釦スイッチでポンプを停止してください。 自家発電設備を運転した場合の対応は、同設備の取扱説明書によってください。

注意事項

- 消火システム制御盤（P型）は物件毎のオーダー設計になりますので、電源灯の位置や点灯状況が上記と異なる場合があります。
- 頻繁に停電が生じる場合は、消火システム制御盤の非常電源（蓄電池）の充電が十分に行われず、設備の監視・作動時間が短くなる場合があります。
- 電源装置等の状態によっては、復電時に機器に故障または障害が発生する場合があります。
- 通常の監視状態において、頻繁に配管内の圧力が減少する（計画停電の時間より短い間隔で、ジョッキーポンプが起動する）などの現象がある場合、◆の事象の発生する確率が高くなります。配管、バルブ等からの微少な漏れが考えられますので、修繕をおすすめします。

※非常電源の種類を確認してください。非常電源の容量は、30分間設備を使用できる容量となります。詳細については、対象となる実設備の取扱説明書などをご確認ください。